

東京都議選勝利へ!

2017年5月18日
No.466

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

5/15沖大集会での全国学生アピール!

▼作部京大同学会委員長

僕は京都から来ました。

僕が訴えたいことは、僕が京都で闘っていることと、沖縄で皆さんが毎日毎日いろんな障害と向き合って苦闘している中身は同じだってことです。そして一緒に闘えば、こんな社会はひっくりかえすことができるんだ。それを團結してつくっていききたい。



戦争の問題に対して、絶対反対で闘ってきました。この沖縄は基地があり、米軍が毎日訓練を行って、住宅の上をオスプレイが飛んで、この前墜落までした。そういう臨戦態勢の中で、トランプと安倍が結託して北朝鮮に対して侵略戦争を構えてる。核兵器の先制使用まで言っている。こういう中で僕ら労働者学生、あるいは自衛隊・兵士、こういう人たちの命が無下に扱われて、あの沖縄戦のように使い捨てにされて殺されていく。これが目の前にきている。こんなことを許しちゃいけないし、僕は絶対止めたい。

みなさん。大学が学生に対して、あるいは研究・教育に対して、今始まろうとしている戦争に対していったい何をやっているのか。京都大学では総長が「軍事研究反対」「戦争反対」と口では言っていて、しかしその実、アメリカの空軍から金をもらって研究をしていた。それが明らかになっても何も言わない。結局、口ではいいこと言いながら、研究という形で戦争に突き進んでいる。学生に対してどんどん管理強化している。今日、私たちがこの場で訴えることに対して、全学休校にし、政治的なものに対して、社会を変えようとする討論や内容に対してふれさせもしない。これが今の大学だし、僕たちをなめくさっている。何も考えられないまま、

戦争にどんどん無理やり動員していく。これがいま大学で始まっています。

そういう中から私たちは、2015年の10月に戦争絶対反対と言って、沖縄大学当局のように休校にするんじゃないで、私たち自身の手で止めるんだと言って、ストライキをやりました。大学が「今年は4.7%儲けたから次は10%儲けましょう」なんて言っている。あんなしょうもない連中なんか一握りじゃないですか。私たちこそが力を持っている。大学を作っている。だからこそこの大学の中から声を上げた時、全部ひっくり返すことはできるんだ。そういう力を私たちは京都大学で先頭に立って、全国・全世界のみんなに、こういう風にして闘って、こんな社会全部ひっくりかえそうじゃないか。そう訴えてストライキをやりました。

みなさん。僕に対して、ストライキを理由に無期停学処分がかけられて、いま放学(退学)処分にするという攻撃がかけられています。学生が闘うことに対して権力はとことん抑え込んで、共謀罪や朝鮮戦争という形で動員しようとしているわけです。しかしそういう中で、全国で全学連をはじめ闘っている仲間がいて、労働者も共に闘って、そういう人たちがどんどんつながって、辺野古で基地反対で闘っている。そういう人たちが分断されずにひとつにつながったとき、僕らは一人じゃない。バイト潰けで身も心もボロボロにされて、生きていけない状況から、みんな手をつないで一緒に生きていくんだ、そういうあり方をストライキ、あるいは処分に対してもそれを支えあっていけるような團結を僕らはつくってきた。そういう中で僕は処分されるかもしれないけど、処分されても次の執行部として断固闘っていききたい。

この社会の中で僕らの生活が切り崩されていく。これをひっくり返す力はここにあります。こうして一つ一つ僕らは決断してつくってきました。一緒に闘いましょう。

国鉄1047名解雇撤回! 戦争・民営化と闘おう

国鉄闘争全国運動 6・11全国集会

◆6月11日(日)13時~

◆江戸川区総合文化センター大ホール

(東京都江戸川区中央4-14-1)

【主催】国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動(国鉄闘争全国運動)

※写真は1600人が結集した昨年の国鉄大集会(江戸川区総合文化センター)



▼森田広大自治会委員長

私は被爆地・広島から駆け付けました。

私は初めから学生運動をやろうと思って大学に来たわけではありません。しかし学生の身ではありますけど、学生だからこそ声をあげる存在になろうと思ったきっかけは、この沖縄に来たことでした。もともと沖縄の問題、米軍基地の問題、こんなことがあっていいのかという思いがありました。しかしそれだけでは行動するには足りなかった。私が学生として声を上げようと思ったのは、基地労働者という存在があったこと、本当に苦しい思いで基地で働く選択をしている存在がいると知った時です。

そして、沖縄の学生たちが、選択肢として基地で働くことがあると知った時、自分がどうするのか、どう生きていくのか、戦争に対していかなる立場をとるのか。それが働くことと一体なんだと分かった時に、自分も学生として声をあげようと思いました。

本当にこの間、沖大学生自治会から全国に、沖大生の窮状があきらかにされてます。4人に1人がキャンパスから去らざるを得ない状況。経済的な問題です。バイト漬けになりながら、それでも大学に通い続けて、それでも辞めざるを得ない現実があること、このことを知って、自分たちの大学も全く同じだと思いました。

広島大学はキャンパスで自殺が多い大学だと言われます。この間も4年生が飛び降り自殺をしました。本当に苦しい日々、沖縄にとって非正規の問題が大きいんですけど、全国でも同じです。まともに生きていけない現実を自分の選択肢にしないために、身を粉にして学問に打ち込む。バイトに打ち込む。それが一体何のためになるのか。それに大学は回答を出すことができない。あるいは今の社会が回答を出すことができない。こういう現実を変えるのが大学の役割じゃないのか。私たち自身の、学生や教職員、社会の果たすべき役割じゃないのか。そういう力を持っているのが学生や労働者じゃないのか。そういう思いがばらばらにされているからこそ、苦しい現実が一人一人に強制されている。みんながみんな、一人一人生きるための苦闘をしていると思います。

バイト漬けだったり、ブラック研究室みたいところで夜遅くまでやっている。生きるための必死の格闘、そういうものが個別ばらばらにされているからこそ、許しがたいものにされていく。必要なのは団結だと思います。生きるためにともに声を上げることです。

だからこそ私たち全学連は、キャンパスの学生自治会の連合体なのです。私たちはあらゆるキャンパスの生きるための苦闘を団結に変えて、社会を変える実際の力に変える。そういうことをやっていきた。

戦争情勢が激しいからこそ、本当に基地労働者がどう生きていくのか。私たちの広島大学でも、戦争にいかなる立場をとるのか。トランプを呼ぶかどうかなんてことが広島で少し議論になってますけどね。トランプにお願いして核や基地をなくさせるなんてできないわけじゃないですか。基地をなくす力は基地労働者の決起であり、沖縄の学生たちの未来と共にあるし、私たち学生全体の未来の中にあると思います。この日々の苦闘を、社会を変える力にしましょう。共に声をあげましょう。



▼武田法大文連委員長

沖大生のみなさん、周辺ご通行中のみなさん、法政大学から来ました。文化連盟委員長の武田といいます。

改めてはっきりさせたいことがあります。いま目の前にあるこの沖縄大学、本日の集会に対して、沖縄大学は昨年からはスポーツ大会なるものをぶっこんで、全学を休校にする。一年生についてはゼミで動員して出欠を採る、そういう強制的な形をとって、学生が怒りの声を上げる、このことそのものを不可視化する。こういうような卑劣なやり方を行っているということ、本当に許しがたいと思います。

法政大学でも、学生のデモがあるたびに、営業妨害だとか危険行為だとか言って、すべての窓が閉ざされ、正門が締められる。こんなことが当たり前のようにおこなわれている。

いまの大学は、学生たちの怒りの声に対して、目の前の看板にありますけど、「許可をとっていないよね」、許可は降ろさないわけですけど、許可がないだとか、こうやって単位だとかカリキュラムとかを使って、応答することすらしない、ひたすら無視する、つぶす。こういう対応しかできない。これが今の大学だと思います。その一方で、法政大学や沖縄大学は、やれ「野党共闘だ」「オール沖縄だ」とか、そうやってあたかもいま安倍政権による戦争政治に対して、反対の声を挙げているかのような装いを取っています。しかしその実態はどうですか？ 法政大学についていえば、学生の怒りの声を弾圧して、そして一方で「改憲反対だ」とかなんだとか言いながら、学内においてはビラまき一つできない。オリンピックを推進して、国策の大学改革を推進して、どんどん学問を政府と資本に売り渡している。

沖縄大学もそうじゃないですか。「オール沖縄の大学」「基地反対」と言いながら、学生から100万以上の学費をむしり取って、学生や、基地反対の集会、反戦企画を行おうとしたら許可を降ろさないで、一方では大学の教室をつかって自衛隊の勧誘をさせている。こういう大学のあり方こそが、学生から政治を奪って、貧困に叩き落として、けっきょくしかたない現実として、基地あるいは自衛隊、そういったところに行かざるを得ない、こういう状況を生産しているんじゃないですか！ マッチポンプなんですよ！ 安倍が北朝鮮に対して、日米韓で軍事的重圧をかけて北朝鮮の側のミサイル発射をまねいて、それをテコにして改憲を行おうとしているように、いま沖縄大学だって、けっきょく基地反対だとかなんだと言いながら、学生を貧困と戦争に追いやっている。こういうマッチポンプのあり方を、私たちはどうやって変えるのか、今こそ議論して行動を起こすべき時だと思います。

オール沖縄、野党共闘、彼らに欠けているのは「誰がこの社会の主人公で、どうやって変えるのか」という視点だと思います。選挙で変わりますか？ 仲地学長に頼んで変わりますか？

私たち学生・労働者が職場・キャンパスから団結して立ち上がる、ストライキで戦争を止める、貧困を強制するこの社会のあり方を止める。それがやはり私たち労働者・学生の本当の力だと思います。いまからデモに行って、その一歩を共に踏みだして行きましょう。ともに闘いましょう。

